

9月は米国株式の仕込み場となるか

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

米国の株式市場では、興味深い「周期」があります。その一つが「9月が安い」というものです。月別騰落率を調べてみると、1900年以降および2000年以降ともに、9月の騰落率が1年の中で最も低い結果となりました。反対に、4月や11月の騰落率が高くなっており、下図の米国株式の月別騰落率を参考にするのであれば、9月の下落した局面においての「買い」は、11月に向けて奏功するといえそうです。

近年の米国では、毎年1月・4月・7月・10月の中旬から企業の四半期決算発表が本格化します。そのため、決算発表を控えた売買の難しさなどが影響しているのかもしれない。

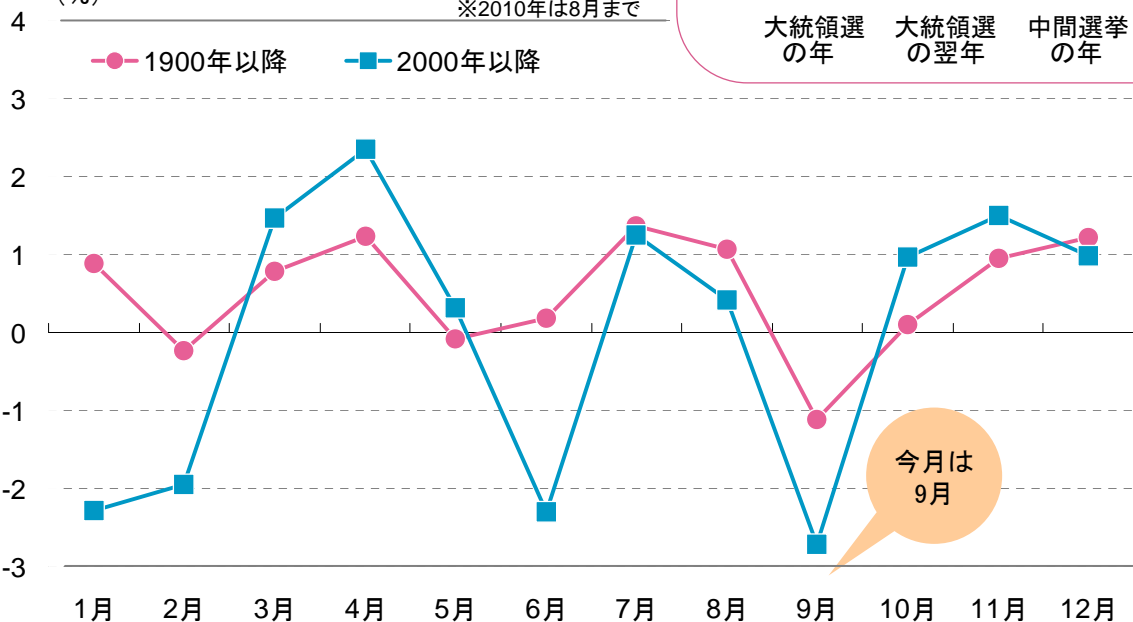
なお、興味深い「周期」として、大統領選挙を中心とした4年毎の株価の騰落も注目されます。

こうした結果は、理論では説明できない株価の規則的な現象であり、今後もこのような現象が続くとは限りません。しかしながら、過去の経験則は時に投資のヒントとなる場合があることから、世界の株式市場に影響を与えやすい米国株式だけに、プラスαの材料として経験則を参考にしてはいかががでしょうか。

米国株式の月別騰落率

(1900年および2000年以降
2010年※までの騰落率平均)

(*)2010年は8月まで



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成) ●両グラフの米国株式は、NYダウ工業株30種平均
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。